

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成22年2月号

編 集 大井 利夫  
発 行 人 〒102-8414 東京都千代田区一番町13-3  
社団法人 日本病院会 通信教育課  
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)  
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)  
URL <http://www.jha-e.com/>  
受付時間 9:00~17:00  
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)  
発 行 日 毎月1日  
定 価 1部 150円 1カ年1,600円(送料共)  
郵便振替 00190-5-396045  
名 義 社団法人 日本病院会 通信教育部

## 医学・医療の進歩と診療録の役割

寺 柿 政 和

大野記念病院 副院長  
循環器内科部長

大阪会場 基礎課程(臨床医学各論V)講師

30年近く前、駆け出しの研修医の頃に、20代の青年が急性前骨髄性白血病によるDIC(播種性血管内凝固症候群)のために、病院のエレベーター内で大量吐血してあっという間に亡くなった。学生の頃に習った白血病の分類は、誤解を恐れずに言えば至極単純で、急性・慢性と骨髄性・リンパ性の各々4つの組み合わせしかなかったが、それは文字通り不治の病であった。それが近年、遺伝子解析が飛躍的に進んで細分類化され、最新の治療法により寛解させることが出来るようになった。

同じ頃、「血管の中が見えたらどんなだろうか」と先輩医師に尋ねると、「真っ赤で何も見えないだろう」と笑われた。未だ心臓CT(“冠動脈”CTではない!)が世に出たばかりで、造影剤で心内腔が染まって見えたとき興奮した頃である。ところが、今や血管内視鏡を用いれば、冠動脈壁が血管の内腔側から観察出来て、黄色く見える破綻し易い動脈硬化巣や血栓まで判るのである。

25年ほど前、顕微鏡で心筋梗塞や心筋炎の病理組織を見ながら、「心筋細胞は分裂しているはずだ」と恩師の教授が呟くのを見て、「えっ」と驚いた記憶がある。その頃、教科書的には神経細胞と心筋細胞は分裂しないと言われていたからだ。それがつい7~8年前、「心筋梗塞後に残った細胞は分裂する」と、著名な医学雑誌The New England Journal of Medicineにセンセーショナルに掲載された。心筋梗塞後や心筋症による心不全患者の心筋再生医療に道を拓くと期待される画期的な成果である。

自分が医師になって僅か30年程の間にも、医学・医療の進歩には目覚ましいものがある。そんな驚きを目の当たりにしながら、私は内科医・循環器医として、齢を重ねてきた。その間に経験した一例一例の記録は診療録として残っている。臨床医学はもとより、疫学・社会医学・医療経済学など、すべての原点は「診療の記録」であり、そこにはあらゆる情報が詰まっている。まさに診療録は医学・医療にとっては「宝の山」なのである。

2003年から診療情報管理士通信教育基礎課程の講師を務めさせて頂いて、今年2月で早くも8回目の講義となった。医療は決して医師や看護師だけで成り立つものではないことは、今更繰り返すまでもないが、熱心にスライドを見つめ、ノートを録り、質問に並ぶ聴講生の皆さん、診療情報を扱う「プロ」として診療情報管理士を目指すこれらの方々の今後の活躍に大いに期待したいと思う。